

令和6年度 千葉県における「ぶり」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（1）千葉県におけるブリの漁業実態

大臣許可漁業以外の千葉県におけるぶり類漁業は、主に外房海域から内房海域にかけて操業されており、まき網、刺し網、定置網及び釣り漁業等、様々な漁法により漁獲されている。

（2）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

①目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近5年間（2016年から2020年まで）の平均値（7,798トン）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

②該当する資源管理協定

「ぶり」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおり、3協定であり、このうち本検証の対象となる協定は、2協定（参加者2事業者）となっている。

協定	備考	協定	備考	協定	備考
東安房（本所）	◎	東安房（天津小湊）	◎	鴨川市	

◎ 本検証の対象協定

③自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考（該当する協定）
定置網漁業	◎ 休漁期間の設定	休漁期間の設定（8から9月のうち約2週間）	東安房（本所）
	漁具の制限	目合いは、運動場及び昇り網では30センチメートル以上、第一箱網では12センチメートル以上、第二箱網では6センチメートル以上	
まき網漁業	◎ 休漁日の設定	休漁日の設定（第1・第3日曜日）	東安房漁協（天津小湊）
	◎ 休漁期間の設定	休漁期間の設定（8月下旬から9月中旬のうち2週間程度）	

◎ 協定に記載されている取組

(3) 資源管理の効果の検証

本県におけるブリ類漁獲量は、1978年から1993年までは増加傾向で変動し、その後、2007年までは概ね横ばいで推移した。2007年から2009年までに5.5千トン増加し、以降、1万トン前後で大きく変動している(図1)。2022年の漁獲量は、9.4千トンであり、資源管理の目標である7.8千トンをやや上回っている。

一方、国の令和5年(2023)度資源評価では、漁獲圧は資源評価開始年の1994年以降、直近も含めて、最大持続生産量(MSY)を実現する漁獲圧を上回っており、親魚量は1994年以降、最大持続生産量を実現する親魚量を下回っていた(図2)。

協定参加者による検証(自己点検)では、漁獲量及びCPUE(単位努力量あたり漁獲量)は、1協定で減少、1協定で増加と判断している。また魚価(単価)は、1協定で低下、1協定で上昇と判断している。同じ沿岸漁業(前者はまき網、後者は定置網)でも、それぞれの項目で評価が異なっている。

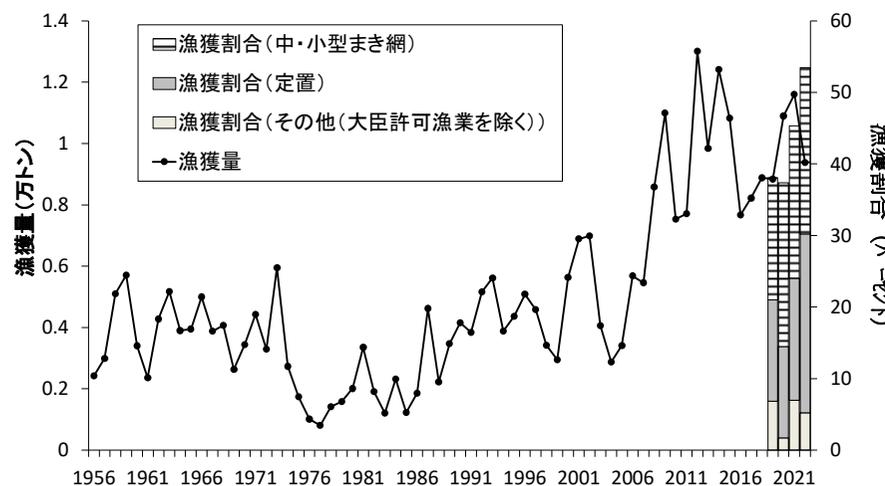


図1 千葉県のブリ類漁獲量と漁業種類別漁獲割合

(海面漁業生産統計調査)

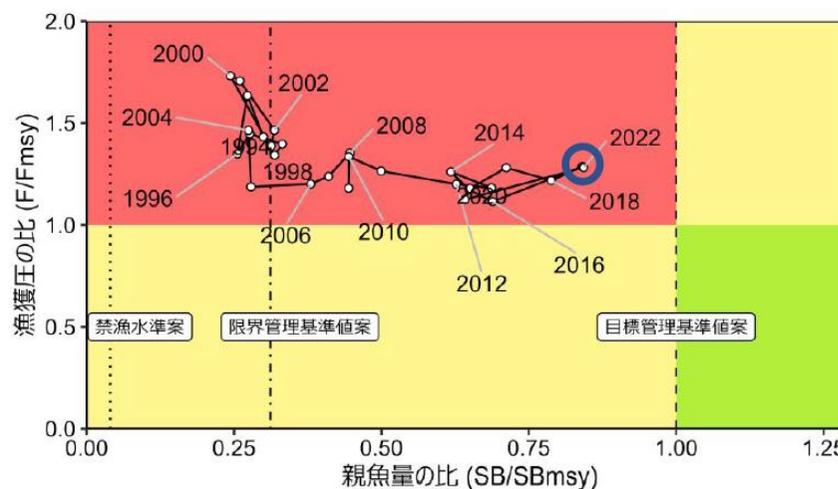


図2 神戸プロット

(水研機構 HP 令和5(2023)年度ブリの資源評価)

(4) 効果をもとめるための協定の改善・高度化の検討

本県における漁獲量が、県の資源管理の目標をやや上回ったことは、ブリの来遊量の多寡や漁場形成が海況の影響を受けることに起因すると推定される。国の資源評価では、親魚量はMSYを実現する水準を下回り、漁獲圧はMSYを実現する親魚量を維持する水準を上回っているなど、資源状況は良好とは言えない。このことから、今後の国の資源評価や海洋環境の変化等に注視しつつ、現在の取組を継続していくことが重要と考えられる。